

## 「テレビや本で見るだけじゃなく」

「外国に行きたい！！」

そんな一心で高校二年生の夏休み、私は外国へ行くことを決めた。

国は正直どこでもよかった。

一人で外国へ行こうとしている私に母は反対した。

「せめてツアーで行って！！」

しかたなく私はネットでツアーを探した。

その時ボランティアができるスタディツアーを見つけた。

「どうせ行くならいいことしよっ」

とスタディツアーで探すことに、

しかし、大学生以上からしか参加できないツアーばかり出てきた。

「なんでやねん、年齢で差別するなんておかしいわ」

当時の私はそんなことを思っていた。

それでもあきらめずに探していると、高校生でも参加できるスタディツアーを見つけた。

フィリピンのセブ島でのスタディツアーでした。

セブ島は観光地の顔を持つ一方、一本道をそれるとスラムが広がっていた。生活費を稼ぐために路上で働いている子どもたち、赤ちゃんを抱えた当時の私と同じくらいの年の女の子、住む家がなく路上で暮らしている家族、子どもを使って私の気を引いている間に財布を取ろうとしてくる大人。しかし、子どもの数が多くとても活気のある町だった。セブ島での出来事が強く私の心に残った。

帰国後フィリピンについて調べた。

フィリピンは4人に1人が貧困。東南アジアで1番貧困の割合が高いということがわかった。

“何かできひんかなあ？”

当時の私に出来ることは

“セブ島で見た光景を多くの人に知ってもらうこと”

だと考え、授業、高校の卒業イベント、国際交流センターでのワンワールドフェスティバル for youth でフィリピンのセブ島で見たこと、感じたことをプレゼンした。フィリピンについてのホームページを作った。Facebook での広報もした。

高校三年生の時、国際理解という授業でフェアトレードを知った。

“このフェアトレードを使ってセブ島で貧しい暮らしをしている人たちに何かできひんかなあ？”

フェアトレードについてもっと知りたいと思い、ネットで調べ本を読んだ。

そして受験では貿易論の中でフェアトレードについて講義が受けられる近畿大学を選んだ。フェアトレードについての講義の中でさらに深く学べた。フェアトレードの認知度が欧米ではフェアトレードの認知度が 50%~80%なのに対して、日本は 14.7%と知った。ほかの国に比べて日本はフェアトレードが広まっていない。フェアトレードを広めることによって、セブ島、フィリピン、アジアそして世界の多くの国の貧しい人たちの生活を支援できるのではないかと考えた。

“どうしたらフェアトレード広まるやろ？”

フェアトレード商品が広がっていない原因は、商品の導入期の宣伝が足りていないと考えた。Twitter（面白くしてリツイートで広める）や Instagram（商品をおしゃれに撮影して話題にする）、Facebook（身近な方へフェアトレード商品を意識してもらう）YouTube（題名とサムネイルで興味を引き付ける）など SNS などを活用し、より多くの人にフェアトレード商品を知ってもらい、購入につなげたい。

4月からは再びセブ島へ飛び立つ。

フェアトレードについて“生産から販売”までの工程 をセブ島でのインターンシップで日本の消費者により買ってもらえるフェアトレード商品を現地の方と一緒に開発する。そして町へ、日本へフェアトレードを広めていく。

国際協力に興味を持ったのは

「高校二年生の時、セブ島の路上の子どもを見た瞬間」

三年前の夏、私の人生は大きく変わった。